

公共施設の木質化と木の良さ普及啓発②

- 矢板市では、令和6年4月1日開業の「矢板市文化スポーツ複合施設」に木質化を取り入れ、公共施設の木材利用を促進。
- 本施設は、文化活動・スポーツ活動に参加する市民のみならず、まちなか交流施設として誰でも気軽に立ち寄ることができる憩いの場であるとともに、スポーツツーリズムの拠点施設として市外・県外からの来訪者も集う場であることから、当該施設内（外壁、内壁、天井等）に矢板市産材を活用し、市民の郷土愛を醸成するとともに、利用者に対して木の良さを普及啓発することとした。

□ 事業内容

「矢板市文化スポーツ複合施設」新築工事の実施

- ・鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）2階建 延面積約3,300㎡
- ・多機能ホール、アリーナ、トレーニングルーム、研修室等
- ・令和5年12月27日竣工

【事業費】1,506,725千円（うち譲与税5,000千円）

（譲与税は、木工事の一部（矢板市産材の内外装部分）に充当）

【実績】矢板市産材使用量約30.4㎡（設計図書による概算値）

内訳 内壁羽目板499㎡、巾木155m、天井羽目板529㎡

天井木ルーバー675m、外壁木ルーバー455m

□ 取組の背景

- ・令和元年台風19号災害により水没し使用不能となった矢板市文化会館と、築50年超で老朽化著しい矢板市体育館を集約、複合化し、新たな公共施設を新築することになった。
- ・単なる文化活動、スポーツ活動の拠点ではなく矢板市の地方創生のシンボリックな施設を目指す中で、本市の林業・製材産業のアピールのため市産材を内外装に活用した。



(施設全景)



(アリーナ1F内壁羽目板)



(外壁木ルーバー、軒裏羽目板)

□ 工夫・留意した点

- ・当初は市有林の活用を検討したが、伐採、製材加工のスケジュールが建設工期に間に合わないため断念した。
- ・設計の段階では市産材だけでは必要数量を賄えない可能性がある判断し、仕様書上は一部木材を「県産材」での調達と指定したが、施工事業者、納入事業者の尽力により、県産材指定の木材も市産材で調達してもらえた。
- ・市産材の指定により工事費の増額が心配されたが、森林環境譲与税の充当により円滑に事業を遂行できた。

□ 取組の効果

- ・コンクリート造の無機質な建築物を木質化したことによって、「木の優しさ」が感じられる施設となった。特に、正面エントランスの両側に広がるスギ材の木ルーバーと頭上庇裏の羽目板が施設の来訪者に明るく柔らかな印象を与え、木の良さの普及啓発に役立っている。
- ・本施設は県内公共施設で初めて「ZEB Ready」の認証を取得した。内外装を木質化したことによって木そのものがもつ環境に良いイメージが加わったことにより、施設全体の環境配慮の印象が増幅されている。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：35,500千円		②私有林人工林面積(※1)：4,753ha	
③林野率(※1)：56.8%	④人口(※2)：31,165人	⑤林業就業者数(※2)：120人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より